

差出人： [北極海氷情報室](#)
宛先： asic@nipr.ac.jp

件名： 【北極海氷情報室:12】 北極海氷中期予報第1報を公開しました
日付： 2021年6月8日 8:03:39
添付ファイル： [210525北極海氷中期予報第1報.pdf](#)

2021年6月8日（火）
北極海氷情報室メールマガジンご購読の皆様

国立極地研究所国階北極環境研究センター ArCS II北極海氷情報室では、メールマガジンを始めます。

これはその最初の配信になります。

メンバーは、3月の北極航路課題成果報告会の後に実施されたアンケート調査に、配信希望とのご回答を頂いた方々になっております。

今後、メンバーの拡張、内容の充実を図つつ、1～2週に1回の配信を目指します。

今回は今年の夏の海氷分布予報についてです。

5月27日に、今年の夏の北極海氷分布をwebにて発表しました。

https://www.nipr.ac.jp/sea_ice/forecast/2021-05-25-1/

企業等、お使いのネットワークセキュリティ設定の関係でwebアクセスできない方のため、このwebページのスクリーンショットを添付しますので、詳細はそちらをご覧ください。（注：本PDFの2～4ページがwebのスクリーンショット）

図3、4は動画です。これをメール添付で送ることは容量的に不可能ですので、ご覧になられたい場合は、何とかしてwebを見てください。

現在、第2報に向けて多年氷の分布を見ております。それによると、今年も、昨年（2020年）同様、4年以上の古い多年氷がボーフート海まで南下しているようです。昨年同様、この多年氷が夏まで解け残る可能性があります。

詳細は、6月下旬に発表する第2報をご覧ください。

北極海氷情報室 室長
山口 一

--

これはArCS II北極海氷情報室のメールマガジンです。

ご意見、お問い合わせや配信停止のご連絡は、下記までお願いします。

〒190-8518

東京都立川市緑町10-3

国立極地研究所 国際北極環境研究センター 北極海氷情報室

asic@nipr.ac.jp



HOME > 北極海氷分布予報 > 2021年第一報

2021年第一報

2021.05.25 北極海氷情報室、木村詞明（東京大学大気海洋研究所）

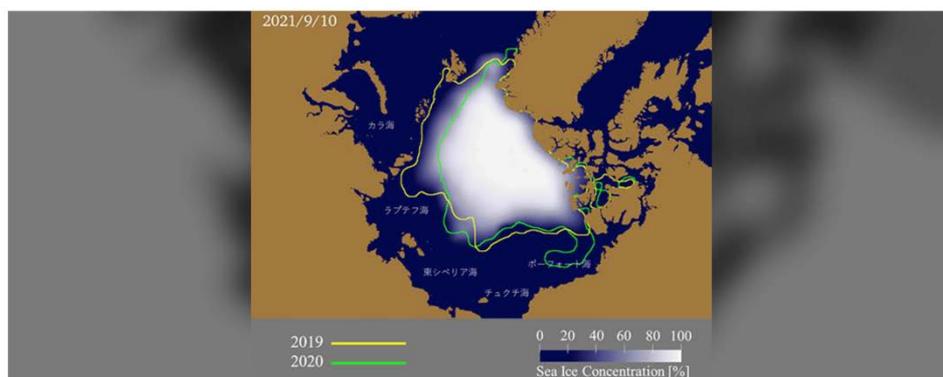


図1：2021年9月10日の海氷分布予報図。

- 1 北極海の水氷域面積は9月の最小期に約367万平方キロメートルまで縮小する見込みです。これは昨年の最小時とほぼ同じ面積です。
- 2 ロシア側の北東航路では8月2日頃、多島海を除くカナダ側の沿岸では7月15日頃に海水が岸から離れて航路が開通する見込みです。

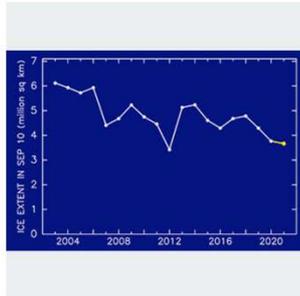


図2：2003年以降の最小海水域面積（9月10日の海水域面積）の年変化。2021年の値（黄色点）は今回の予測値。
昨年までの海水域面積は気象庁による集計値。

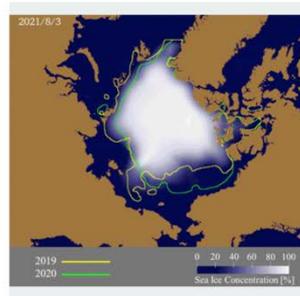


図3：7月1日から9月20日までの海水分布予測値（白い場所が海水）のアニメーション。
黄色実線は2019年、緑実線は2020年の同じ日（画像左上に表示）の水縁（氷濃度30%の位置）を示す。

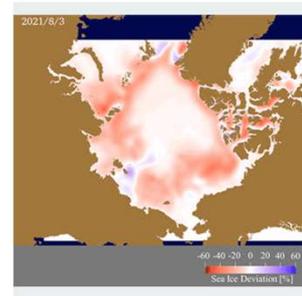


図4：予測された海水氷濃度の平均値（2003-2020年の平均値）からの偏差。
赤が例年より早く海水がなくなる場所、青は遅くまで海水の残る場所を示す。

夏季の北極海水氷面積は最近数十年の間に急速に減少してきてきましたが、2013年から2019年にかけてその減少傾向が顕著ではありませんでした。しかし、2020年の海水最小期にあたる9月10日の北極海水氷面積は、約377万平方キロメートルと2012年に次いで二番目に小さい値となりました。2019年、2020年と海水域は減少しており、今年の海水氷面積は2020年度と同程度の小さくなる見込みです。

ロシア側海域

海水域の後退は、2020年より遅く、2019年より早くなる見込みです。海水が大陸から離れロシア側の開放水面域がつながるのは、2020年と同じ8月2日頃と予想されます。

カナダ側海域

チュクチ海からボーフォート海にかけてのアラスカ沖海域でも、2019年と同時期に海水域が後退します。北アメリカ大陸沿岸は、7月15日頃に開放水面域がなくなり、航路が開通する見込みです。

2020年は多年氷の影響によりボーフォート海に海水が残りました。今回の予報では、ボーフォート海は2020年に比べ、海水域が後退していくと予想されますが、多年氷の影響を加味していないため、カナダ側海域の海水分布については2020年と同様の分布になる可能性もあります。多年氷の分布の解析結果に関しては、6月下旬から7月初めにかけて公開予定の第二報でお伝えします。



この予報には人工衛星搭載の国産マイクロ波放射計AMSR-EおよびAMSR2による観測データを用いました。

おおまかな予報の手法については、2018年の第一報をご参照ください。

今年は昨年を引き続き、冬季の海水の動きに加えて、2003年以降の海水密度度の長期変化傾向も考慮に入れて予報を行なっています。

毎日の予測図は国立極地研究所の北極域データアーカイブでも見るすることができます。



北極海の衛星モニタリングや海水予報、ここで用いた予測手法についてのご質問は海水情報室 (sea_ice@nipr.ac.jp) までお問い合わせください。



この予報およびその基礎となる研究は、GRENE北極気候変動研究事業から始まり、北極域研究推進プロジェクトに引き継がれ、2020年度からは北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) で実施しています。

[← 前の記事](#)

[▶ 北極海水分布予報一覧](#)



北極海水情報室

[TOP](#) [北極海水分布予報](#) [北極海水情報](#) [レポート・論評](#) [北極海水情報室について](#)
[関連リンク](#) [よくあるご質問](#)

